

脳神経外科診療所で活用する 漢方薬トレーシングレポート

高安 武志¹⁾、木嶋 保²⁾、河原 章浩³⁾、小川 恵子³⁾

1) おひさま脳神経外科・歯科 (広島県)

2) キジマ あたまのクリニック (石川県)

3) 広島大学病院漢方診療センター (広島県)

トレーシングレポート (TR: 服薬情報提供書) は保険薬局等で患者から得た情報のうち、緊急性は低いがある内容内容を医師に提供するものである。当院では、TRを漢方治療に応用することで、漢方の学習効果や診療の効率化につなげている。本稿では、漢方版TRの応用例を紹介し、患者情報収集のあり方について考察する。

Keywords トレーシングレポート、漢方薬治療、脳神経外科、初学者

はじめに

トレーシングレポート (以下、TR) は、患者の薬物治療関連の情報を得た保険薬局が、「即時性は低い処方医への報告が望ましい」という内容を報告する仕組みである。近年、TRは内服抗がん剤治療中の患者フォローアップなどで利用され、医療安全や医療経済への貢献が報告されている^{1, 2)}。頭痛診療においても治療効果や副作用の確認、薬剤師から患者への助言などに活用されている³⁾。漢方薬治療においては問診や診察所見から「証」を考察し、それに適合した方剤を処方する。さらに良い処方を行うためには、導き出した証で選択した漢方薬が奏効したかどうか、すなわち治療結果のフィードバックを得ることが重要な学習機会となる。そこでわれわれは漢方薬に特化したTRを作成し、筆頭著者の脳神経外科診療所 (以下、当院) で運用している。漢方薬版TRの使用例を紹介する。

症例1 54歳 女性

【主 訴】 めまい・頭痛・嘔気

【既往歴】 特記事項なし

【現病歴】 1週間前からめまい・頭痛・嘔気が持続するため、当院を受診した。約3週間前、約9ヵ月前にも同様の症状があり、近医内科や近医耳鼻咽喉科を受診したが、特に異常は指摘されなかった。症状は安静で軽快するが、体動で悪化し、仕事を休むこともあった。胃腸の調子が悪い・便が緩い、との問診も得た。

【漢方医学的所見】 体格はBMI (Body Mass Index) が19.7とやせ型で、顔色も虚した状態であった。脈候はやや浮または浮、幅は中間、緊張はやや弦で、按じて無力が右の寸・関と左の寸で認められた。舌候はやや赤紫色で微白苔があったが、歯痕および舌下静脈怒張は見られなかった。

【経 過】 めまいは動揺性のめまいで、神経学的診察や頭部MRIで異常所見がなく、末梢性のめまいと考えられた。身体所見で虚の状態が示唆されたことと、消化器症状を伴っためまい・頭痛であることから、半夏白朮天麻湯7.5g/日 (分2) で処方した⁴⁾。2日後に調剤薬局薬剤師が本人に電話聞き取りを実施し、当院はその結果をTRとしてFAX受信した (図1、図2)。服用初日から頭痛・めまいの症状が緩和されていることが確認できた。内服継続の約3週間後に再診され、「内服していると症状が落ち着いている。」と、効果を実感しておられた。8週間分を追加処方して継続加療とした。

図1 トレーシングレポート運用の流れ

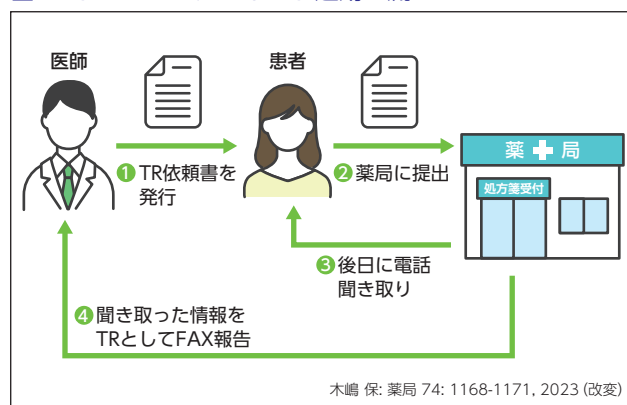


図2 症例1のトレーシングレポート

症例2 28歳 女性

【主 訴】 頭痛

【既往歴】 気管支喘息

【現病歴】 約3週間前に子供が感冒に罹患し、本人も鼻漏を多少認めていたが、発熱・咽頭痛は生じなかった。約2週間前より頭痛を自覚するようになった。当初は午後に多かったが、次第に1日中頭痛が生じるようになった。ロキソプロフェンナトリウム錠を内服したが、効果は限定的であった。当院初診時、痛みの強さはNRS(Numerical Rating Scale)で6～7/10点とやや強い状態であった。

【漢方医学的所見】 腹診では腹力がやや軟弱、臍傍圧痛が全周性にあり、臍上悸も触れた。胸脇苦満・心下痞・腹直筋の緊張・振水音・小腹不仁は認められなかった。舌候はほぼ正常紅で微白苔あり、軽度の歯痕と軽度の舌下静脈怒張があった。

【経 過】 神経学的診察で異常所見がなく、二次性頭痛の可能性は低いと判断し、ご本人の希望もなかったため頭画像診断は実施しなかった。国際頭痛分類第3版に照らし、片頭痛には該当しない頭痛であった。寒がり・胃腸の丈夫さは普通・汗はあまりかかない、との問診を得た。臍傍圧痛も認めたことから葛根湯証と診断し⁵⁾、葛根湯 7.5g/日(分2)で処方した。

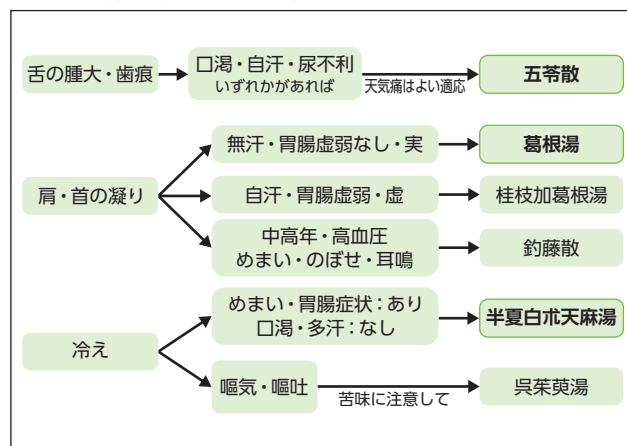
3日後にTRを受信した。内服初日から効果があり、頭痛が改善したことから、胃腸障害の副作用もなかったことが確認できた。患者はその後、再受診されなかった。

考 察

漢方薬治療の難しい点のひとつは漢方薬の種類の多さにある。例えば、同じ頭痛という症状であっても患者ごとに異なる方剤を選択する「同病異治」の考え方を要する点である。複数の候補から最適な薬剤を選択するためには、随証治療・方証相対といった基本的手法が初学段階では取り組みやすい。症例2における「頭項強痛・無汗・胃腸虚弱なし・臍傍圧痛から葛根湯⁵⁾のように、目標症候が多く合致する方剤を選択する方法である。

図3に当院における頭痛に対する漢方薬選択方法の一部を示す。脳神経外科医は神経診察で挺舌させるため、まずは舌診をとることが多い。そこで水滯を示す腫大・歯痕があれば、五苓散を考慮する。その使用目標である口渴・自汗・尿不利についての問診を行い、当てはまるものがあれば積極的に処方を考える。特に天気・天候の影響を受けやすい症例は、五苓散のよい適応となる⁶⁾。首や肩の凝りを伴う頭痛の場合は、葛根湯または桂枝加葛根湯を念頭に置く。葛根湯の使用目標は、自然発汗がないこと・胃腸虚弱がないこととされる^{5, 6)}。桂枝加葛根湯ではその逆で、発汗・胃腸虚弱が使用目標となり、冷感性のある虚証タイプの患者が良い適応となる。いずれも腹診で臍輪直上の圧痛を認めることがある。中高年の慢性頭痛で高血圧の傾向がある場合は釣藤散も選択肢となる。めまい・のぼせ・耳鳴

図3 頭痛に対する方剤選択



り・肩こりを伴う場合は適している。六君子湯の成分が含まれるため、胃腸虚弱があっても使用しやすい⁶⁾。めまいと胃腸症状を伴う頭痛では、半夏白朮天麻湯も候補となる。口渇・多汗がなく、冷えやむくみがある場合は良い適応となる可能性が高い⁴⁾。呉茱萸湯は冷え症に嘔気・嘔吐を伴う頭痛が使用目標となる⁶⁾。かなり苦い味がするため、院内配置薬で味見の試飲をさせ、味が許容できる患者にのみ処方するようにしている。このような基準をもとに実践処方を重ね、その有効例を経験することは次回以降の診療に自信を与える。逆に、効果が乏しい場合には問題点の反省、他の方剤についての追加学習や証の取り方の改善につながる。治療結果のフィードバックは、極めて重要な学習資源となり、その情報源としてTRを活用している。

症例1で提示した通り、今回作成した漢方薬版TRには、服薬コンプライアンス・症状や体調に対する効果・効果を感じた時期・漢方薬の味・副作用の有無や症状について・治療満足度・薬剤師から患者への指導内容が記載されるよ

うになっている。医師は処方の有効性についての結果を含めた、これらの情報を患者の再来前に確認できるため、TRの活用は診療の効率化にもつながる。今回は治療効果があった2症例を提示したが、効果が乏しいとのTR報告を受けることもある。その際は、漢方医学的所見の取り直し項目や、追加問診すべき内容を再検討するなど、患者の再来に備えて準備することができる。また、症例2のように、一時的な症状で漢方薬治療が奏効した場合など、患者は再来されないこともあり得る。TRは再受診がない患者に対する治療結果の把握にも活用できる。

一方で、TRには課題も存在する。現状では、薬剤師による電話聞き取り調査に依存しており、患者にとっては生活の都合等で応答困難な場合がある。また、薬剤師側も日常業務の合間に架電を行うため一定の負担を伴う。今後、患者応答率の向上や薬剤師の業務負担軽減には、TRのDX化やオンライン化が期待される。

謝辞：福岡大樹先生、丸本一輝先生、杉野理紗先生をはじめ、TR作成にご協力いただいた保険薬局の薬剤師の先生方・職員の皆様方に深謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) Koshino Y, et al.: Medical Economic Benefit Derived from the Use of Tracing Reports by Pharmacy-Based Pharmacists for Pharmaceutical Intervention and Reduction of Leftover Medicines. *Biological and Pharmaceutical Bulletin* 45: 1482-1488, 2022
- 2) 津田瑞季 ほか: 外来がん薬物療法における病院と保険薬局の連携強化によるトレーシングレポートを介した薬学的介入の変化とその効果. *医療薬学* 51: 203-212, 2025
- 3) 木嶋 保: 頭痛診療におけるトレーシングレポートの有用性. *薬局* 74: 1168-1171, 2023
- 4) 有光潤介 ほか: 夏バテの漢方治療～半夏白朮天麻湯を中心に～. *phil 漢方* 60: 24-25, 2016
- 5) 矢数道明: 臨床応用 漢方処方解説 (増補改訂版). 創元社, 増補改訂版: 78-83, 1981
- 6) 来村昌紀: 頭痛×呉茱萸湯、釣藤散、葛根湯ほか. *薬局* 72: 3204-3206, 2021